



## 第64回秋季日本歯周病学会学術大会

テーマ:歯周治療でおいしい人生をサポート

会期:2021年10月15日(金)・16日(土)

会場:名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)

大会長:三谷 草雄 先生(愛知学院大学 歯学部 歯周病学講座 教授)

日時

2021年 **10月15日** (金) 12:30 ▶ 13:20

学会1日目

会場

**B会場**

現地開催のみ

名古屋国際会議場 4号館1F <白鳥ホール北・南>

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

### ランチョンセミナーI

# 歯周組織再生療法の変遷から リグロス®の可能性を考える

座長

朝日大学 歯学部 口腔感染医療学講座 歯周病学分野 教授

**辰巳 順一** 先生

演者

日本大学 歯学部 保存学教室 歯周病学講座 教授

**佐藤 秀一** 先生

#### 本セミナーは整理券制です

- 当日8:00より、総合受付付近にて整理券の配付を予定しております。
- セミナー開始後、5分を過ぎてもご来場されない場合は、お弁当の引き換えができかねますので、予めご了承ください。

配布時間:2021年10月15日(金) 8:00~12:00

配布場所:名古屋国際会議場 総合受付(1号館1F アトリウム1/2)

※無くなり次第終了



## ランチョンセミナーI

歯周組織再生療法の変遷から  
リグロス®の可能性を考える日本大学 歯学部 保存学教室  
歯周病学講座 教授

佐藤 秀一 先生



## 略歴

1988年 日本大学歯学部卒業  
 1990年 日本大学助手(歯学部 保存学教室 歯周病学講座)  
 2004年 日本大学専任講師  
 2013年 日本大学准教授  
 2015年 日本大学教授(歯学部 保存学教室 歯周病学講座)  
 現在に至る

日本歯周病学会専門医(指導医)  
 日本歯科保存学会専門医(指導医)  
 日本歯周病学会理事  
 日本歯科保存学会理事

歯周外科手術のもっとも基本的な手技であるウイドマン改良フラップ手術を用いても、歯周組織再生による治癒は期待できないことが過去のNymanらによる一連の研究から証明されました。その結果を基に、歯周組織再生誘導法(Guided Tissue Regeneration法:GTR法)が開発されました。GTR法は、歯周組織再生による治癒が予知できる治療法として世界で初めて認知された歯周外科手術です。GTR法の初期には非吸収性遮断膜を用いて手術が行われていました。しかし、膜を除去するための2次手術が必要なことから、同様の効果が得られ、2次手術の必要がない吸収性遮断膜が開発され用いられるようになりました。それでも、GTR法で使用する遮断膜は感染しやすく、膜が露出すると再生組織量が減少すること、再生するセメント質は細胞性セメント質が有意になること、また、治療手技が複雑で困難なことなどの欠点が問題となり、臨床家に敬遠されるようになりました。そこで、GTR法よりも手技が簡単で、無細胞性セメント質による真の歯周組織再生が期待できるエナメルマトリックスタンパク質が開発されました。このエナメルマトリックスタンパク質の登場によって歯周組織再生療法は各段に行いやすくなり、これまで多くの臨床症例の結果が報告されてきました。

歯周組織再生療法はこのような変遷を経て、日常臨床でルーティンに行える歯周外科治療として数多くの症例で行われるようになったことによって、それぞれの再生療法に対する適応症例や非適応症例などのコンセンサスも確立してきました。また、これらの再生療法を応用し、いくつかの手技を組み合わせた治療法なども発表され、歯周組織再生療法がもたらす臨床効果はさらに拡大していきました。そして、国内では2016年に世界初の歯周組織再生剤リグロス®が承認、保険収載されたことで、歯周組織再生療法に対する可能性がさらに広がったのではないのでしょうか。つまり、これまでの歯周組織再生療法の進歩によって、より重症度の高い歯周病患者の歯が保存できるようになったのではないかと考えられます。

そこで、本講演では、演者がこれまで実際に臨床で行ってきた歯周組織再生療法による治療変遷を鑑み、さらに、リグロス®を用いて行う歯周組織再生治療の可能性について考えてみたいと思います。

## Drug Information

●詳細は添付文書をご参照ください。「禁忌を含む使用上の注意」の改訂に十分ご留意ください。

## 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者  
[本剤が細胞増殖促進作用を有するため]

【効能・効果】 歯周炎による歯槽骨の欠損

## 〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

1. 本剤は、歯周ポケットの深さが4mm以上、骨欠損の深さが3mm以上の垂直性骨欠損がある場合に使用すること。
2. 本剤は、インプラント治療に関する有効性及び安全性は確立していない。

【用法・用量】 歯肉剥離掻爬手術時に歯槽骨欠損部を満たす量を塗布する。

## 〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

本剤の使用にあたっては【臨床成績】の項を参照し適切な量を用いること。

【承認条件】 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

## 【使用上の注意】&lt;抜粋&gt;

## 1. 重要な基本的注意

- (1)本剤は歯周外科手術の経験のある歯科医師又は医師が使用すること。
- (2)術後に歯肉弁の著しい陥凹を生じると予想される骨欠損部位に対しては、他の適切な治療法を考慮すること。

## 2. 副作用

本剤が投与された安全性評価対象症例429例中3例(0.7%)に副作用が認められた。その内訳は、適用部位における歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹および頭痛が各1例(0.2%)であった。臨床検査値異常は429例中51例(11.9%)に認められ、その主なものは尿中アルブミン陽性27例(6.3%)、尿中β<sub>2</sub>ミクログロブリン上昇17例(4.0%)、尿中NAG上昇16例(3.7%)、CRP上昇6例(1.4%)等であった。

分類	頻度	1%以上	1%未満	頻度不明
適用部位および適用部位近傍			歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹	硬結、肥厚
精神神経系			頭痛	
臨床検査		尿中アルブミン陽性、尿中β <sub>2</sub> ミクログロブリン上昇、尿中NAG上昇、CRP上昇	AST(GOT)上昇、ビリルビン上昇、CK(CPK)上昇、ALT(GPT)上昇、LDH上昇、尿糖陽性、リンパ球増多、好中球減少、単球増多、白血球減少、総蛋白上昇	

●その他の使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

2021年2月改訂(第5版)



歯周組織再生剤

リグロス® 歯科用液キット 600μg/1200μg  
 REGROTH® Dental Kit 600μg/1200μg トラフェルミン(遺伝子組換え) 製剤

処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

製造販売元  
(文献請求先)

科研製薬株式会社  
 東京都文京区本駒込2丁目28-8  
 医薬品情報サービス室